

講義コード	1482690000
講義名称	経済学特講-経済学で考える社会問題　＜秋＞
科目英文名	Topics in Economics-Analysis of Social Issues with Economics
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
江川　暁夫

授業 形態	講義	実務経験のある教員による授業①	実務経験のある教員による授業②
		日本の中央官庁で脆弱層政策を経験した教員による具体的な企画立案作業と実務の提案方法を教授する。	アジアでのODA（政府開発援助）を経験した教員による、発展途上国での貧困・格差・社会問題の解決方法の提案。

アクティブラーニングの 詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。	
	コメントシート	小レポート/小テスト

講義・演習概要	このコースは、経済理論が重要な社会問題の議論と解決にどのように、そしてどれだけ貢献できるかについて、基本的な理論を紹介し、それを受講学生が活用できるようになるよう設計されています。 授業構成は、（１）経済学の「使命」と厚生経済学の入門的な枠組みの理解、（２）経済学が取り扱える主要な社会問題としての貧困と所得格差に係る理論的考察と実践的なアプローチ、（３）巷でまことしやかに言われる「この社会問題は経済優先のせい」という主張に対する批判的な考察、となります。
学習（到達）目標	このコースの目的は、以下の2点です。 （１）「経済学vs社会問題」という構図を払しょくし、経済学の知識で社会発展についても考えていける力を、学生自身が持てるようになる。 （２）経済学の知識を持ちながら社会問題の解決方策に関心を持ち、近い将来に経済社会情勢の改善に積極的に関与できる人を養成するスタートラインに立てるようにする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション、本講義の構成、「経済学の使命」
第2回	厚生経済学の理論とその応用範囲
第3回	貧困とは：定義と計測
第4回	貧困とは：より詳細な概念と計測方法の実際
第5回	格差について（定義と、貧困との異同）
第6回	所得格差について（計測、解釈）
第7回	所得格差について（格差の状況、所得再分配の状況、まとめ）
第8回	教育と経済社会開発①：2種類の概念と、人間開発の重要性
第9回	教育と経済社会開発②：人的資源開発/人的資本形成の重要性
第10回	ソーシャル・キャピタルと経済①：理論の理解
第11回	ソーシャル・キャピタルと経済②：研究・取組事例の紹介
第12回	移民・難民問題と経済社会：日本での認識の高まりと世界の対応
第13回	ブラック企業増加、日本の労働慣行と昨今のSDG8対応
第14回	環境問題と経済：なぜ必要なのに解決できないのか
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	25%
レポート	59%
その他	16%

成績評価の方法（コメント）	本講義の採点は、「その他点」では、毎回の授業に出席することを前提に、授業への参画の積極性（授業時間内にQ Rコードを通じて出題される質問に「考えて回答した」という行為）を考慮する。 「レポート」点は、授業後課題（8回以内）への取組（25点）、授業内の出題への回答内容（14点。正答のほか、考慮された独自の回答も加点）、レポート課題（20点）からなる。 「試験点」は、定期考査や授業内試験は予定されないが、「最終課題」として、学期末に出題（数日以内に解答する）ものを指す。 なお、最終課題を提出しない場合は、「その他点」は、それまでの取組状況にかかわらず0点となる。
---------------	--

参考文献	クラス内で提示されるが、英語での読解が可能な学生には、Nicholas Barr, "Economics of the Welfare State" の"Cash Benefits" の部を読むことを勧める。
事前および事後学習の指示	講義科目であることから、事前学習よりも事後学習（復習）が重視される。基本的には授業後課題を通じて復習ができるように授業設計をしているが、以下には留意されたい。 （1）毎回の講義資料は事前に配布するので、その内容に「目を通す」こと。各回10～15分程度。 （2）レポート課題の設問のうち1問は、具体的な社会問題とその経済学を通じた解決策の提案に係るものとなるので、授業内容に関わる社会問題について、常に巷間の議論についてアンテナを張り、関連するを収集し、自らの考えを展開できるようにしてほしい（事前学習に相当）
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	14D2620000
講義名称	社会思想史Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	History of Social Thought Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	PHIL1410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
梅田　百合香

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	本講義では、西洋の近現代を代表する思想家の社会思想を分析することによって、宗教的・政治的・経済的自由と道徳との関係などを中心に、自由と社会秩序という問題の本質と現代的課題を考察する。
学習（到達）目標	受講者は、広く経済学に関わる思想史上の専門的知識を身につけることを目標とする。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	講義ガイダンス ホッブズ（１）時代背景と課題
第2回	ホッブズ（２）なぜ人々は国家を形成するのか
第3回	第１回試験およびまとめ（ホッブズ）
第4回	ロック（１）時代背景と課題
第5回	ロック（２）社会契約論と政教分離
第6回	第２回試験およびまとめ（ロック）
第7回	ルソー（１）時代背景と課題
第8回	ルソー（２）なぜ社会契約が必要なのか
第9回	第３回試験およびまとめ（ルソー）
第10回	スミス（１）時代背景と課題
第11回	スミス（２）経済的自由主義の定式化
第12回	第４回試験およびまとめ（スミス）
第13回	ミル（１）時代背景と課題
第14回	ミル（２）個性と自由
第15回	第５回試験およびまとめ（ミル）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	

その他	
-----	--

成績評価の方法（コメント）	5回の小テストにおいて、学習目標に対応するテーマに関する選択式問題を出題する。 この5回のテストで、授業内容を踏まえた専門的な知識が身についているかどうかを評価する。 5回以上欠席した場合（公認欠席は含まない）、成績評価対象外となるので注意すること。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						テキストは使用しない

参考文献	坂本達哉『社会思想の歴史―マキアヴェリからロールズまで』名古屋大学出版会、2014年。 宇野重規『西洋政治思想史』有斐閣、2013年。 仲正昌樹編著『政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで』法律文化社、2013年。 山岡龍一『西洋政治理論の伝統』放送大学教育振興会、2009年。
事前および事後学習の指示	各思想家について、参考文献の該当箇所を事前に読み、予習しておくこと。 講義中はノートを取り、授業後スライドの内容と照らし合わせてノートをまとめ直し、復習しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：社会思想史）02～10生読替（E・CBCC・文学部生のみ）

講義コード	15D0730000
講義名称	格差社会論　＜秋＞
科目英文名	Studies in Social Inequality
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC2500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
中西　啓喜

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	日本社会は、今日では社会のさまざまな領域において不平等の拡大が報告されており、「格差社会」と呼ばれている。本講義では、社会階層の基礎的な視点を理解しつつ、社会経済的格差、男女間格差、世代間格差、教育格差、結婚格差の実態とその原因、社会的メカニズムを説明し、現代の日本社会における格差問題について理解を深め、その是正策について考えることを目的とする。
学習（到達）目標	①社会階層についての基本的な理論を修得する ②現代日本社会の格差の現状について理解する ③格差是正の社会的方策を考える視野を得る

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション：授業の進め方や授業内容について
第2回	就活における学歴社会は不平等なのか 1
第3回	就活における学歴社会は不平等なのか 2
第4回	就活における学歴社会は不平等なのか 3
第5回	格差をどう考えるか：社会階層の見え方と階層論の基本的諸概念
第6回	「女性」の社会階層をどう定義・測定するか
第7回	社会階層の開放性の測定から移動
第8回	家族形成の格差：結婚格差
第9回	家族形成の格差：家事分担
第10回	家族形成の格差：女性の就業継続
第11回	家族形成の格差：子育ての不平等、シングルマザー
第12回	貧困と社会的排除
第13回	格差の是正を考える：公教育費
第14回	格差の是正を考える：雇用をどう保障するのか
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	その他30%：授業内でのM-Portを通じたコメントシートへの回答
---------------	-----------------------------------

参考文献	中西啓喜・萩原久美子・村上あかね（2024）『大学生からみるライフコースの社会学』ミネルヴァ書房。
事前および事後学習の指示	自分自身にとって関心があり、知りたいテーマについて考えておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：社会階層論）10～18SS☆（旧：社会学特講－社会階層論）02～09SS生読替

講義コード	16D1420000
講義名称	人的資源管理論 B　　<秋>
科目英文名	Human Resource Management B
開講責任部署	経営学部　経営学科
代表ナンバリングコード	BUSA3430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
三輪　卓己

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 企業の人事部スタッフ、ならびに組織人事の経営コンサルタントの実務経験を授業に反映させる。
------	----	---

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)
---------------	--	----------------

講義・演習概要	講義のテーマとして、企業経営全体の中で人的資源管理の意義を考察し、今後の社会に適合した人的資源管理とはどのようなものであるかを探索することを掲げます。基礎編(A)に比べ、理論としての発展の経緯や経営全体との関わりの中での変遷等が重視されます。まず経営資源としてのヒトはどのように捉えられるのか、そのマネジメントである人的資源管理とは何であることを理論的に理解するところからスタートします。そして日本企業において、人的資源管理はどのような特徴を持つと認識されるのか、どのような歴史的変遷があったのかを考察していきます。具体的な人的資源管理の仕組みの説明はもちろん、その意義や問題点について深く掘り下げていきます。その際、今後の社会において重要となる人材群（女性、国際人材、技術者等）やトピックス（知識労働や自律的キャリア開発）に焦点をあて、それを糸口に将来に向けた深い考察を行いたいと思います。現在は日本企業の経営、人的資源管理の大きな転換期だといえます。知識社会の進展により、働く人々には今までと異なる能力や行動が求められ始めました。当然ながらそれに伴う人的資源管理の見直しも必要になってきます。こうした将来に向けての大きな変化を展望し、しっかりと対峙していける心的態度や思考能力を身につけることも、学部学生には大事になってきます。受講生の皆さんと活発な議論をしていきたいと思います。
学習（到達）目標	人的資源管理論に関する基礎理論をしっかりと修得することと、現実社会への理解を深め、実践的応用力を高めることの二つを目標とします。論理的思考能力(特に課題発見力、創造力、論理的分析力、総合的判断力)、主体性の開発に主眼を置きます。

講義・演習計画

回	内容
第1回	人的資源管理とは何か（理論的特長とその発展過程） 人的資源管理論の発展過程とその背景にある社会の変化を説明したうえで、授業全体のスケジュールや、受講上の注意事項を伝達する。
第2回	長期雇用と遅い昇進（長期選抜） 日本的な昇進制度について、企業内特殊知識や知的熟練と関連づけて学習する。
第3回	日本企業の人事考課 日本の人事考課制度が日本企業の経営や組織特性とどのように関連しているか学習する。
第4回	作業組織設計と人的資源管理 日本企業に多くみられるチーム作業組織と人的資源管理の関わりについて学習する。
第5回	成果主義賃金 1990年代以降増加した成果主義賃金について、その実態や意義、問題点を学習する。
第6回	目標管理（MBO）とコンピテンシー 成果主義賃金とともに普及した目標管理等について、その実態や意義、問題点を学習する。
第7回	モチベーションと人的資源管理 モチベーション理論と人的資源管理の理論を関連付けながら、成果主義や年功主義の人的資源管理の再検討を行う。
第8回	女性労働者 女性労働者を積極的に活用するうえでの人的資源管理のポイント、日本企業が変わるべき点について学習する。

第9回	高年齢労働者 高齢者を積極的に活用するうえでの人的資源管理のポイント、日本企業が変わるべき点について学習する。
第10回	研究開発技術者 技術者等の専門職を積極的に活用するうえでの人的資源管理のポイント、日本企業が変わるべき点について学習する。
第11回	国際的人的資源管理 駐在員や外国人を積極的に活用するうえでの人的資源管理のポイント、日本企業が変わるべき点について学習する
第12回	非正規労働者 非正規労働者を積極的に活用するうえでの人的資源管理のポイント、日本企業が変わるべき点について学習する。
第13回	キャリア開発 働く人のキャリア発達について、ライフサイクルやキャリア志向などの基本的概念を学ぶ。
第14回	知識・情報社会のキャリア これからの知識・情報社会におけるキャリアが工業化社会とどう異なるのかを学ぶ。
第15回	まとめ 全体を振り返り、ポイントの整理と今後に向けての展望を行う。

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	90%
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	レポート(最終レポートと各回の小レポート)を中心に評価する。 それに、授業中の発言や質問の評価を加える。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著	入門人的資源管理 第2版	大学オンライン販売	978-4-502-67360-3	中央経済社	

	第1回 (事前学習)テキスト第1章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第2回 (事前学習)M-Portで指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第3回 (事前学習)テキスト第7章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第4回 (事前学習)テキスト第3章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第5回 (事前学習)テキスト第9章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第6回 (事前学習)テキスト第7章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第7回 (事前学習)テキスト第2章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第8回 (事前学習)テキスト第13章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第9回 (事前学習)テキスト第14章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第10回 (事前学習)テキスト第16章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
事前および事後学習の指示	

	第11回 (事前学習)テキスト第15章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第12回 (事前学習)テキスト第12章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること 第13回～第15回 (事前学習)M-Portで指示する資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	雇用管理，人事考課制度，賃金制度，キャリア開発，知識労働者
備考(管理者用)	(旧：経営労務論B) 08～09生読替☆(旧：経営労務論) 02～07生読替

<社会人の方へ>事前にWebClassに公開する授業資料を見たうえで参加してください。

講義コード	17E0230000
講義名称	観光英語B　＜秋＞
科目英文名	English in Tuorism B
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	0ENG2430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
平田　和彦

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	日本政府観光局(JNTO)によると、日本を訪れる外国人旅行者の数は年1000万人を超えている。このような社会情勢をふまえ、私たちは自国の文化・歴史などを習得し、それらを英語で紹介できるようにならなければならない。この授業では専門のテキストを使用し、これらに対しての造詣を深めていく。
学習（到達）目標	英語の学習を通し、日本の文化・歴史を国際社会にアピールできるようなることを目指す。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	オリエンテーション & Chapter 6 Japan's Top Three Pottery Styles(1)
第2回	Chapter 6 Japan's Top Three Pottery Styles(2)
第3回	Chapter 6 Japan's Top Three Pottery Styles(3)
第4回	Chapter 7 Japan's Top Three Night Views(1)
第5回	Chapter 7 Japan's Top Three Night Views(2)
第6回	Chapter 7 Japan's Top Three Night Views(3)
第7回	Chapter 8 Japan's Top Three Famous Foods(1)
第8回	Chapter 8 Japan's Top Three Famous Foods(2)
第9回	Chapter 8 Japan's Top Three Famous Foods(3)
第10回	Chapter 9 Japan's Top Three Limestone Caves(1)
第11回	Chapter 9 Japan's Top Three Limestone Caves(2)
第12回	Chapter 9 Japan's Top Three Limestone Caves(3)
第13回	Chapter 10 Japan's Top Three Scenic Spots(1)
第14回	Chapter 10 Japan's Top Three Scenic Spots(2)
第15回	Chapter 10 Japan's Top Three Scenic Spots(3)

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
----	-----

レポート	30%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	「その他」 ……授業への意欲的な参加
---------------	--------------------

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	Toshiyuki Sakabe	Touring Japan in English	大学オンライン販売	978-4-523-17788-3	NAN'UN-DO	

参考文献	授業時に適宜紹介する。
事前および事後学習の指示	必ず予習し、設問に答えておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：観光英語）08～17L生読替☆（旧：翻訳研究）02～07L生読替

講義コード	1A10010000
講義名称	世界の市民-コミュニケーション学から考える　＜秋＞
科目英文名	World Citizen-With Perspectives from Communication Studies
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
宮脇　かおり

授業形態	講義	アクティブラーニング	プレゼンテーション
	グループワーク		

アクティブ ラーニング の詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
	ディスカッション(話し合い)	プレゼンテーション(発表)	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)

講義・演習概要	桃山学院大学の建学の理念は「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」です。グローバル化が進む現代社会では、日本に暮らしていたとしても、自分とは異なる文化背景を持った人々と接する機会が多くあります。本講義では大学生にも身近な問題を取り上げ、特にコミュニケーション学の視点から、世界市民としての態度や行動について議論します。
学習（到達）目標	自分が当たり前だと思っていた事柄に疑問を持つようになってもらいたいです。身の回りに存在しているはずなのに今まで意識していなかった人、文化、習慣を考え直す機会としてもらいたいです。グローバルな人とは、海外経験がある人とは限りません。日本に暮らしながら世界市民としての意識を持つことは可能ですし、本講義がそのきっかけになれば嬉しいです。

講義・演習計画

回	内容
第1回	シラバス コミュニケーション学とは
第2回	メディアと異文化 レポートについて
第3回	Chapter 1 コミュニケーション学とは
第4回	Chapter 2 ことば・わたし・せかい
第5回	Chapter 3 異文化との出会い
第6回	Chapter 4 海外から見た日本・日本から見た世界
第7回	Chapter 5 メディアと社会とわたしたち
第8回	Chapter 6 レトリックが作るコミュニティ
第9回	Chapter 7 知識が力を持つとき
第10回	Chapter 8 “わたし/わたしたち”と“あなた/あなたたち” Chapter 9 ソーシャル・メディアと対人関係
第11回	Chapter 10 コンフリクト・協調 Chapter 11 働くことと生きること
第12回	Chapter 12 市民社会と公共

第13回	Chapter 13 健康とリスクとコミュニケーション Chapter 14コミュニケーション学とHOPE
第14回	レポート発表
第15回	最終試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	20%
レポート	30%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	その他： 授業内小テスト20% 課題30% 定期的に授業内容と関連した課題を提出してもらいます。 また、自分が特に興味を持った講義内容に関するレポートを作成し、授業内で発表してもらいます。 試験の内容は、毎回の授業内で行う小テストの内容が主になります。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	藤巻光浩・宮崎新編	改訂版 グローバル社会のコミュニケーション学入門	大学オンライン販売	978-4-8234-1260-8	ひつじ書房	

事前および事後学習の指示	講義時の指示に従い、教科書の該当するページと、配布資料がある場合にはそれを熟読し、授業中の課題に取り組めるよう準備をしてください。講義時間内にはペアワークやグループ・ワークなどを行う為、積極的な授業参加が求められます。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	異文化コミュニケーション メディア
備考(管理者用)	(旧：世界市民-コミュニケーション学から考える) 02～19生読替

講義コード	1A10100000
講義名称	世界の市民-「貧しさ」を考える　＜秋＞
科目英文名	World　Citizen-Rethinking Poverty
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 火曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
森田　良成

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	われわれとは異なる環境で暮らす人々の生活を主な事例として「貧困」についての理解を深める。具体的には、ティモール島（インドネシア共和国/東ティモール民主共和国）におけるフィールドワークの成果をもとに、文化人類学の立場から議論を進める。桃山学院大学の建学理念「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界の市民の養成」に基づいて、世界には自分とは異なる様々な生活と人々の生き様があることを理解する。
学習（到達）目標	自分とは異なる文化を生きる人々への理解を深め、そのうえで自分が生きる文化、社会、時代を新しくとらえ直すこと。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション
第2回	開発と停滞(1)
第3回	開発と停滞(2)
第4回	開発と停滞(3)
第5回	開発と停滞(4)
第6回	売買の経済と贈り物の経済(1)
第7回	売買の経済と贈り物の経済(2)
第8回	売買の経済と贈り物の経済(3)
第9回	国家のルールと慣習のルール(1)
第10回	国家のルールと慣習のルール(2)
第11回	国家のルールと慣習のルール(3)
第12回	書かれた歴史と語られる歴史(1)
第13回	書かれた歴史と語られる歴史(2)
第14回	書かれた歴史と語られる歴史(3)
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	[その他40%] 平常点を評価するために、小レポート等を複数回実施する。提出回数だけではなく、記述内容、すなわち「授業内容を理解したうえで自分の考えを論理的に記述できるかどうか」を評価する。 [レポート60%] 1000字程度を予定。小レポートと同じく、「授業内容を理解したうえで自分の考えを論理的に記述できるかどうか」を評価する。出題・作文の条件・評価基準などについて、授業内で詳しく説明する。
---------------	--

参考文献	春日直樹、竹沢尚一郎編（2021）『文化人類学のエッセンス』有斐閣 ほか、授業において指示する。
事前および事後学習の指示	講義中に紹介する文献資料を読むこと。 課題に積極的に取り組むこと。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：世界市民-「貧しさ」を考える）02～19生読替